#### 城東学園小中一貫校整備検討委員会設置要綱 (案)

(設置)

第1条 城東学園小中一貫校整備に関する基本構想・基本計画、基本設計(以下「基本構想等」という。)の策定に当たり、城東学園小中一貫校整備検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項を調査及び協議するものとする。
  - (1) 城東学園小中一貫校の整備に向けた基本構想・基本計画に関すること。
  - (2) 城東学園小中一貫校の整備に向けた基本設計に関すること。
  - (3) 前2号に掲げるもののほか、基本構想等の策定に関して必要な事項。 (組織)
- 第3条 委員会は、委員25人以内で組織する。
- 2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱し、任命する。
  - (1) 小中一貫教育及び小中一貫校整備に関し学識経験を有する者
  - (2) 地域住民の代表者
  - (3) 保護者の代表者
  - (4) 関係学校の代表者
  - (5) その他教育委員会が必要と認める者
- 3 委員の任期は、委員の委嘱の日から基本構想等が策定される日までとする。ただし、欠員が生 じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

- 第4条 委員会に委員長及び副委員長1人を置く。
- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。 (会議)
- 第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。
- 2 委員の過半数の出席があれば、会議を開くことができる。
- 3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。 (公開)
- 第6条 委員会の会議は公開する。ただし、委員長が必要と認めるときは、委員の過半数の同意により、会議を非公開とすることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育政策課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要綱は、令和6年 月 日から施行する。

### 城東学園小中一貫校整備検討委員会 委員名簿

No.	役	職	氏 名	所 属 等	備考
1	委	員	石川 春乃	静岡理工科大学理工学部建築学科 准教授	学識経験者
2	委	員	嶺岡 慎悟	市議会議員	地域住民代表者
3	委	員	石川 紀子	市議会議員	"
4	委	員	髙塚 義巳	土方地区 区長会	"
5	委	員	鈴木 久志	佐東地区 区長会	"
6	委	員	松下 隆	中地区 区長会	"
7	委	員	青野 孝善	土方地区 まちづくり協議会	"
8	委	員	村田 敬子	佐東地区 まちづくり協議会	"
9	委	員	近藤 保雄	中地区 まちづくり協議会	"
10	委	員	村松 一幸	城東中学校保護者	保護者代表者
11	委	員	角替 孝司	土方小学校保護者	"
12	委	員	栗田 和之	佐東小学校保護者	"
13	委	員	松本 一茂	中小学校保護者	"
14	委	員	松原 早紀	きとうこども園保護者 (土方地区)	"
15	委	員	土井 彩子	きとうこども園保護者(佐東地区)	II.
16	委	員	松下 承美	きとうこども園保護者 (中地区)	"
17	委	員	水野 優美子	子ども育成支援協議会	関係学校代表者
18	委	員	柴田 勝明	城東中学校	"
19	委	員	鶴田 伸司	土方小学校	"
20	委	員	大竹 佳子	佐東小学校	"
21	委	員	村松 裕幸	中小学校	"
22	委	員	望月 美矢子	きとうこども園	11

#### 城東学園の小中一貫校整備に向けた検討経過

城東学園では、小中一貫教育を推進するため、下記の検討を行ってきました。★の内容について、概要をお伝えします。

#### <検討・意見聴取経過一覧>

(1)を作り 心がりしずいれた//	± 70 ·	
日 程	内 容	詳細
平成29年12月12 日~平成31年3 月31日	城東学園新たな学 園づくり地域検討 委員会★	<ul><li>・全8回の検討委員会を行い、報告書をまとめた。</li><li>・地域意見交換会は3回(各地区1回ずつと城東全域2回)実施。</li><li>・保護者説明会は4幼保園と3小学校で各1回実施。</li></ul>
令和2年 11月10日(火)	   状況報告会 	<ul><li>・市教委から区長会・まちづくり協議会・地域コーディネーターへの状況説明を実施。</li></ul>
令和4年 8月2日(火)	学校再編計画の策 定に向けた地域意 見交換会★	・参加希望者によるグループワーク形式での意見交換と、 質疑応答を行い意見聴取を実施。
令和5年 6月10日(土)	きとうこども園意 見交換会★	・きとうこども園に通う保護者の皆様を対象に、現状説明 と質疑応答での意見聴取を実施。
令和5年9月25 日~11月16日	地区集会	・土方/佐東/中地区すべてから城東学園の学校再編についての状況・スケジュールについてをテーマとして挙げていただき、市教委からは令和6年度から検討をスタートしたいとして回答。
令和6年 7月9日~	城東学園新小中一 貫校整備検討委員 会	・小中一貫校の整備に向けた基本構想・基本計画および基本設計を策定するため検討を開始。

#### ■ 平成29~30年度 城東学園新たな学園づくり地域検討委員会

全8回の検討を踏まえて平成31年3月13日にまとめられた「報告書」では、下記提言がなされています。

城東学園の地域性や歴史・現状を踏まえ、小中一貫教育を推進するためにふさわしい学校の 在り方については、「施設一体型」または「施設隣接型」の学校の整備が望ましい。

上記提言に至った視点は次のとおりです。

1. 城東学園の小中一貫教育研究の結果

成果	課題
中1ギャップの緩和	小小/小中間の交流における移動時間/手段の確保
中学校での人間関係トラブルの減少	教員同士の打合せ時間の確保
小中間の学習内容の重なり解消	交流活動の拡大・乗り入れ指導

- 2. 国や近隣市町の動向
- 3. 校舎の老朽化
- 4. 学校の施設形態におけるメリット・デメリット
- 5. 児童生徒数の推移: 少子化の進行
- 6. 1学年複数学級を有する学校への視察
- 7. 掛川市の公共施設マネジメント
- ※詳細については準備会等でお渡しした「報告書」をご確認ください。

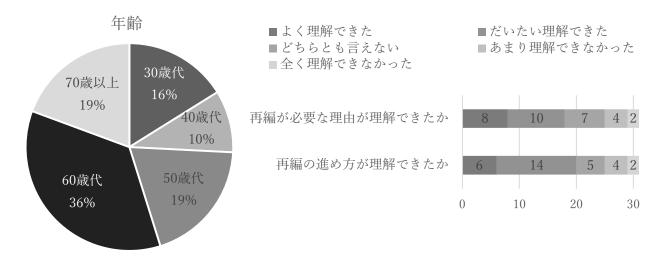
### <御質問と回答(平成30年度時点)>

Q1:	なぜ小中一貫教育なのか。
<u> </u>	平成 28 年度に学園化構想第 2 ステージ検討委員会という外部委員会を立ち上げて、学園化構
A 1:	想の次の段階としてどのような教育を行っていったらよいか、ということを検討していただき
	ました。その中で小中一貫教育の必要性が打ち出されました。
Q 2 :	園小中の連携をさらに進めるのは分かるが、学校まで一体にする必要があるのか。
	一貫教育の成果と課題については、国の調査では、大きな成果が認められると答えた学校が
	23%、成果が認められると答えた学校が 76%、あわせると 99%の学校が小中一貫校にして成
A 2 :	果が出たと答えています。一方、課題があると答えているのは全体の 50%くらいあります。
	こういったことも踏まえて検討委員会で検討していただき、今回の報告(一体型または隣接型
	の一貫校が望ましい)をいただいたと考えています。
Q 3 :	小規模校はよくないというが、人数が多すぎるのも課題があるのではないか。
	あまりに大規模な学校は教育に弊害があるという御意見については、私たちも当然そのように
	考えています。現在は、12 学級から 18 学級が標準規模とされています。12 学級というのは
A 3 :	小学校では1学年最低2クラスあって、クラス替えができて、いろいろな刺激を受けられる、
	コミュニケーション能力や社会性を養うことができる適正な規模が2クラスぐらいです。教育
	委員会としては、決して、学校を統合して規模を大きくすることがよいとは考えていません。
Q4:	大浜中と城東中を1つにした方が将来的にはよいのではないか。
	合併前に中学校1校、小学校2校にするという計画がありましたが、現在の掛川市ではそのよ
	うな方針は持っていません。城東中学校と大浜中学校を1つにして、小学校を2つにという意
A 4 :	見については検討委員会にお伝えをして、検討していただきました。城東学園の枠組みの中で
	検討するということになったので、城東学園として相応しい学校のあり方を提言していただき
	ました。
Q5:	一体型や隣接型の一貫校になった場合、学校がなくなる地域はどうなるのか。
	もし今後、検討委員会から報告のあった小中一体型の学校を整備していくことになったとした
	ら、当然小学校がなくなる地域も出てきますが、その後の地域づくりについては全庁をあげて
	その地域のいろいろな方面から、どんな新しいまちづくりが考えられるのかということを検討
	していきます。
A 5 :	他市で小中一貫教育を実施しているところの話を聞くと、2クラスになってクラス替えができ
	るような学校になるのであれば、そこに住みたいという保護者もいるということを聞いていま
	す。その後の地域づくりで住みよい地域になれば、多くの方に住んでいただけるようになると
	思われますし、小学校がなくなれば子どもがいなくなるとか、若い世帯がいなくなる、という
	ことではないと考えています。

#### ■ 令和4年度 学校再編計画の策定に向けた地域意見交換会

参加者:31名

<参加者アンケート>



### <御質問と回答(令和4年度時点)>

Q 1 :	学校再編ありきなのか。
	は考えています。ただ、それを強引に推し進めるということではなく、皆さんの御意見を伺い
A 1:	ながら、多くの方の御理解をいただきながら進めていきたいと考えています。
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
	反対の意見もありがたく頂戴して、反対の理由、不安、心配事を解消しながら前に進めていき
	たいと考えています。
Q 2 :	今後のスケジュールや優先順番はどう決まっていくか。
	9中学区を同時に進めるのは難しいため、優先順位をつける必要があります。再編計画を作っ
A 2 :	て進めていくにあたり、話し合いのベースを現行の中学校区ごとに行っていますが、まずは学
A 2 ·	区をどうするのかという議論が最初になると思います。その中で再編するのか、しないのかの
	話し合いをしていきたいと考えています。
Q 3 :	小中一貫校になった時に教員はどうなるのか。
	小中一貫校であっても組織上は小学校と中学校が別々のため、小学校は小学校の教員が、中学
	校は中学校の教員が教えることが基本になります。ただし、中学校の教員が小学校で教える、
A 3:	その逆の場合もあり得ると考えられます。
A 3 ·	中学校の教員免許は教科ごとの免許になっているので、英語の免許であれば小学校の英語や外
	国語活動を教えることが可能です。小学校の免許だけでは中学校で教えることはできません
	が、小中両方の免許を持っている教員が多いので、その場合には中学校で指導ができます。
Q4:	小中一貫校になった時に校長先生はどうなるのか。
A 4 :	小学校と中学校がそれぞれあるので、双方に校長先生がいることになります。
Q 5 :	再編は誰が決めるのか。
۸	最終的な決定は教育委員会が行います。住民の皆さんとの意見交換を行った上で決めていきた
A 5:	いと考えています。
Q6:	建設予定場所は。

	現段階では白紙の状態です。候補地としては現在の学校用地や市有地を考えていますが、決定
A 6:	しているわけではありません。今後、具体的な検討を行う中で皆様の御意見を伺っていきたい
	と考えています。
Q 7 :	防犯対策について何か考えがあるか。 
	防犯対策については、児童生徒が利用するエリアと、地域住民が利用するエリア、共同利用す
A 7:	るエリアを区画分けし、行き来を遮断する扉を設ける等のハード的な対策を行うとともに、地
	域利用エリアへの管理人の配置や、利用者登録制等のソフト的な対策と併せて検討していきま
	す。
Q8:	新しい学力、授業は分かるが、先生のレベル UP が書かれていないのが気になる。それが先で
Q O ·	はないか。
A 8 :	教員のレベル UP については、日々、教材研究や研修等を行い、新しい学力観、授業観や ICT
// 0 -	を活用した新たな授業に対応するための努力をしています。
Q9:	小中一貫の場合、卒業式はあるのか。
A 9 :	小中一体校であっても小学校と中学校は別組織のため、卒業式を行うのが一般的です。
Q10:	中高一貫校はないのか。
A 10:	市としては、選抜試験等なしで地域の子どもたちが通う小中学校の受け皿を整備することが最
7,10.	優先であると考えていますので、小中学校の再編整備に注力をしていきたいと考えています。
Q11:	施設は何年使えるのか。
	健全な維持管理が行われてきた鉄筋コンクリート造の建物の物理的な耐用年数は約 120 年と言
	われています。しかし全国の多くの学校施設で築 50 年を過ぎるくらいから壁面のモルタルの
	剥落や水道管の腐食による漏水、雨漏り等、劣化による不具合が発生しています。構造躯体そ
	のものの健全性が保たれていたとしても、それ以外の部分の健全性を保つためには定期的な維
A 11:	持修繕が必要です。
	また、50年前の教育内容にあわせた校舎と、現在行っている教育にあわせて作られた校舎と
	では、その構造や設備は大きく異なっており、機能面での劣化は否めない状況です。そのた
	め、早期に再編を行う学校については校舎の改築を、再編がまだ先の学校については大規模修
	繕や長寿命化工事を施しながら機能性と健全性を高めていきたいと考えています。
Q12:	小学校はどのくらいの人数が目標なのか。
	法令上の適正規模は、小学校が1学年2~3学級/学年、中学校は4~6学級/学年です。
	少人数がすべて悪いということではなく、友人関係の濃さや、1年生から6年生までみんなが
	知り合いということで温かな集団を作るという点では良さがあります。学校は子どもたちが将
	来を生きていくための力を身に付ける場所であり、我々が子どものころには知識を身に付ける
A 12:	ことが重視されてきましたが、今後は社会が急激に変化していく中で、知識を身に付けるだけ
712.	ではなく、正解がないような難しい問題に対して、みんなで力を合わせてよりよい答えを導き
	出していくという力が必要になってきます。少人数は、教え込んで覚えさせるという点ではメ
	リットがありますが、仲間と力を合わせて課題を解決するためには、いろいろな人と知り合う
	ということが子どもにとって非常に重要なことになります。1年生から6年生までいつも同じ
	グループだと集団の中での役割が固定化されてしまいますが、クラス替えができると、子ども

	の人間関係を一旦リセットすることができます。クラス替えが出来る、いろいろな価値観と出
	会える、そういう環境を作っていきたいと考えています。
Q13:	学校再編と地域の組織づくりの関係をどう考えるのか。
	現在の地区の枠組みを変えるつもりはありません。旧村単位のコミュニティのつながりが最適
A 13:	だと考えています。ただし、地元が地区の枠組みを大きくしたいという意思を持っているので
	あれば市として支援をしていきます。
Q14:	なぜ人数が減ったのか。
	少子化の進展は全国的な現象です。第2次ベビーブーム以降、出生数はほぼ一貫して減少して
	います。これは、子どもの教育にかかる費用が高くなっていること、景気の悪化により非正規
A 14:	雇用が増えて結婚や出産をためらう人が増えたことなどが原因として考えられます。近年では
	コロナ禍で人との交流が減ったことから婚姻数、出生数が急激に減少しており、少子化に拍車
	がかかることが懸念されています。
Q15:	学校を減らして本来の問題が解決になるのか。
	掛川市の行おうとしている学校の再編は、学校数を減らすことが目的ではなく、子どもたちに
A 15:	望ましい教育環境を整えることが目的です。少子化の進展により、児童・生徒数が減少してい
A 13 ·	る中でこの目的を達成するためには、学校数を減らさざるを得ない状況にあることを御理解く
	ださい。
Q16:	歩きからバスになることで、働かないと生活できない忙しい親の負担増にならないか。
	スクールバスや路線バスの時刻に間に合うように子どもたちを送り出す必要はありますが、現
A 16:	在も集団登校の決められた時間に自宅を出るようにしていると思いますので、そのことが大き
	な負担にはならないと考えています。
Q17:	学校は災害時の避難場所に指定されているが、再編の後はどうなるのか。
	再編後にできる学校については広域避難所にしていきたいと考えています。廃校となる学校に
	ついても施設が残るようであれば、できるだけ避難所として活用したいと考えています。
A 17:	公会堂の活用、親戚・知人宅への避難など分散避難を行っていただいて、地区の避難所や広域
A17.	避難所に行く前にそういう避難のしかたもあるということも周知をしていきます。再編してど
	こに学校を作るのかが決まった段階で、地域の皆さんとどこを避難所にするのか協議をしてい
	きたいと考えています。

#### ■ 令和5年度 きとうこども園意見交換会

参加者:13名 <主な御意見>

- ・ 母校を残したい気持ちはわかるが、子どもたちのコミュニケーションを考えると再編し たほうが良いかもしれない。
- ・ 自身も1学年1クラスだったが、人間関係で躓いたときに逃げ場がなかった。
- ・ 1学年で2~3クラスくらいの規模が良いのではと思う。
- ・ 人数が多いほうが子どもたちが楽しく過ごせそうだと思う、男女比が偏ると大変。
- 複式学級は学力の面で心配。
- ・ 切羽詰まっている状況を反対している方にわかってもらえてないのではないか。デメリットを被るのは子どもたち。
- ・ こども園で一緒になったのに別の小学校に行くのは寂しいと思う。

- ・ 学童も一緒にいれてほしい。
- 地域との施設共有を行う場合には防犯が気になる。必要性もわからない。
- ・ 土方小が築60年も経っているので、今から検討を始めても遅いのではないか。
- ・ スクールバスを地域も使えるようにすれば、反対している方もメリットを感じてくれる のではないか。

#### <主な御質問と回答(令和5年度時点)>

Q1:地域意見交換会で学校再編が反対された理由は何だったのか。

A1:世代別では高齢の方の出席が多く、地域から学校がなくなると地域の衰退が心配という意見が大きくありました。

Q2: 令和6年から検討を始めたらどれくらいで完成するのか。

A 2 : 基本構想、基本設計、実施設計でそれぞれ 1 年、工事が 2 年で最短で 5 年を想定しています。設置場所によっては $+\alpha$ で時間がかかる可能性はあります。

Q3:設置場所はどこになりそうか。

A3:まだ白紙の状態です。

Q4:スクールバスは運用されるのか。

A4:今の規定では小学校4km、中学校6km以上の通学についてはスクールバスを検討したいと考えています。規定の内容そのものについてや、3.9kmだった場合の対応等はこれから検討していきたいと思います。

Q5:再編が実現する前に現在通っている子どもたちへの対応はどうなるのか。

A5:再編に向けても事前の交流が必要になると思うので、そういった活動を実施したいと考えています。原田小・原谷小ではすでに交流を開始しており、日坂小・東山口小でも検討しているところです。

Q6:卒業式は開催されるのか。

A5:先進事例ですと学校によって対応は異なっています。卒業式という名称ではなく開催 しているところもあるので、これから検討していく内容になるかと思います。

公開文書



## 5分で分かる掛川の学校再編



## ★掛川市

# 【未来に向けてチャレンジできるまち】 人と環境が持続するまち 2024



### 目次



### 1 課題

- ・社会で求められる学力の変化
- ・少子化の進行
- ・学校施設の老朽化

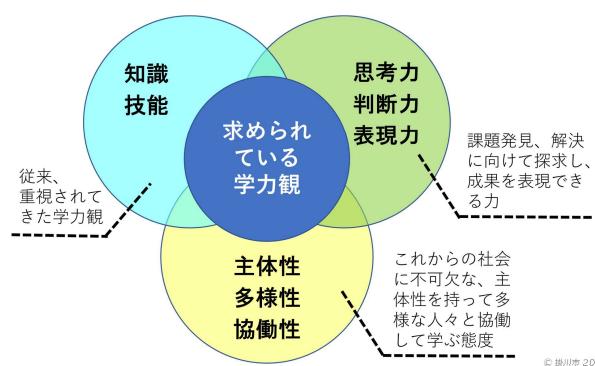
### 2 対策

- ・多様な学びの実践とそれを可能にする集団規模の確保
- ・人口減少を見据えた学校施設の更新
- 3 実現するための手立て
  - ・小中一貫教育の導入
  - ・一貫教育に適した学校施設の整備

© 掛川市 2024 公開文書

## No.1-1 社会で求められる学力の変化





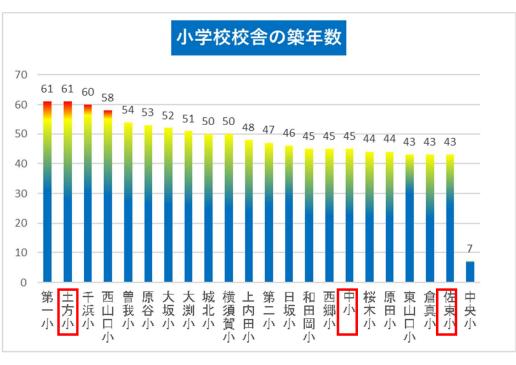
## No.1-2 少子化の進行





## No.1-3 学校施設の老朽化







### No.2-1 多様な学びの実践とそれを可能にする集団規模の確保







「教師が教え込む授業」 から 「子ども中心の授業」



© 掛川市 2024 公開文書

## No.2-2 人口減少を見据えた学校施設の更新



今後、施設の老朽化が進行する

・・・維持修繕費や更新費用 👚



人口減少→税収減 少子高齢化の進展→扶助費の増

・・・維持管理・更新に充てることのできる財源





老朽化を解消しながら、数を減らすことで将来の 負担を抑える。

## No.3-1 小中一貫教育の導入(ソフト)



## 小中一貫教育って?

- ・小学校と中学校が目指すべき子ども像を共有する。
- ・9年間の連続性(系統性)をもった教育課程の編成と実施。
- ・小中の縦の連携と、学校と家庭・地域との横の連携を生かした多様な教育活動の実践。

課題もあるが、様々な効果が出ていることが 先進校の取組みから分かっている。



© 掛川市 2024 公開文書



No.3-2 一貫教育に適し た学校施設の 整備(ハード)

### 小中学校が連携しやすい施設形態

- ・小学校と中学校が一緒の校舎・・・一体型
- ・小学校と中学校が隣り合う・・・隣接型

教職員が、子どもが行き来しやすい学校 城東学園の検討委員会でも一体型か隣接型が望ましいとの 提言(H29~30:新たな学園づくり地域検討委員会)

## 参考資料:児童数の推移(令和6年度)



	小学校	令和6年度在校生						
	小子权	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
城東中	土方小	20	27	29	26	27	30	159
学校区	佐東小	24	16	22	22	31	31	146
	中小	8	17	13	20	18	22	98
	計	52	60	64	68	76	83	403
	小学校	令和6年度在校生						
大浜中		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6 年生	計
学校区	大坂小	44	45	63	67	59	62	340
十 仅 位	千浜小	21	31	30	25	25	33	165
	計	65	76	93	92	84	95	505
大東区域計		117	136	157	160	160	178	908

© 掛川市 2024 公開文書 11

## 参考資料:児童数の推移(令和12年度推計)



	小学校		令和12年度推計					
	八十亿	R 5 年度生	R 4 年度生	R3年度生	R 2年度生	R 1年度生	H30年度生	計
城東中	土方小	11	14	20	16	21	25	107
学校区	佐東小	15	11	16	21	20	12	95
	中小	9	15	8	9	16	8	65
	計	35	40	44	46	57	45	267
	小学校		令和12年度在校生					
大浜中		R 5年度生	R 4 年度生	R3年度生	R 2年度生	R 1年度生	H30年度生	計
学校区	大坂小	38	33	31	40	41	52	235
于 (X 区	千浜小	23	17	27	25	21	17	130
	計	61	50	58	65	62	69	365
大東区域計		96	90	102	111	119	114	632

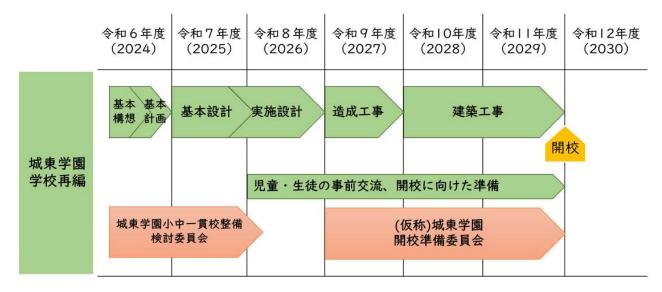
# ご清聴ありがとうございました



© 掛川市 2024 公開文書

### 今後の予定について

学校再編に向けたスケジュールは下記を想定しています。



令和6年度に基本構想·基本計画の策定を行い、最短で令和12年4月の開校を想定しています。

以下の表にある通り、今年度は全7回での検討を想定しています。基本的には平日夜の開催となる見込みです。委員会に加えて、近隣市町の一貫校の視察や、地域・保護者向けの説明会も実施したいと考えています。

日付	検討委員会	検討内容	備考
令和6年5月29日	準備会	検討委員会概要・スケジュール説明	
令和6年7月9日	第1回	委員会名称・要綱決定、建設候補地検討	
令和6年7月23日	保護者	新しい学校に通う可能性のある0歳~小	
7月27日	意見交換会	学3年生の保護者を対象に実施	
令和6年8月7日	視察	沼津市立静浦小中一貫学校を視察	
令和6年8月下旬	第2回	建設候補地・コンセプト検討	
令和6年8~9月	説明会・	地域向け説明会	
7和0年8~9月	ワークショッフ゜	教職員・児童生徒向けワークショップ	
令和6年10月下旬	第3回	建設候補地・コンセプト検討	建設地決定
令和6年11月下旬	第4回	複合施設・コンセプト検討	コンセプト決定
令和7年1月下旬	第5回	複合施設検討	複合施設決定
令和7年2月下旬	第6回	施設規模・諸室概要検討	
令和7年3月下旬	第7回	基本構想・基本計画の策定	

## 最新の学校施設について

## 事例紹介

### 全国の先進事例のご紹介

### ■事例一覧

	. 无					
NO	施設名称	所在地	複合化	多機能 ※	環境 配慮	木造
1	吉川市立美南小学校	埼玉県吉川市	0	0		
2	作手小学校	愛知県新城市	0	0		
3	ながふじ学府小中一体校	静岡県磐田市	0	0	0	
4	府中市立府中学園	東京都府中市	0	0		
5	さくら小学校	大阪府守口市		0	0	
6	にじの丘学園	愛知県瀬戸市		0	0	
7	大豊町立大豊学園	高知県長岡郡 大豊町	0	0	0	0
8	星の杜小学校	富山県魚津市	0	0		0

※多機能:学校施設内に多用途に利用が可能な空間がある事例

例:図書室+メディアセンター+コンピュータールーム+学習スペース ランチルーム+他学年の交流の場+地域の集会所 大階段+交流の場+発表の場+展示 など

#### 新しい住宅地に求められる学校施設を含めた公共施設の整備

地域の二一ズに応じた複数の公共施設と一体的に整備 地域利用の施設を1階に集約し、施設管理の負担を軽減

- ■学校規模 / 17 学級 527 名 (特別支援学級 / 2 学級 5 名)
- ■複合施設(床面積) 小学校(8,134㎡) 公民館(299㎡) 高齢者ふれあい広場(182㎡)
  - 高配有5M (200 NG場 (182111) 子育て支援センター (105㎡) 学童保育室 (358㎡)
- ■整備時期 /平成24年
- ■構造 / RC 造地上 3 階建て

#### 施設整備の背景

美南小学校が立地する美南地区は新興住宅地であり、人口が急増している学校をはじめ既存の公共施設がないため、より広範囲の地域の二一ズを踏まえ、学校とその他の公共施設との複合施設として整備。



学校の特別教室と公民館の間に設けられた 学校と地域が共有する中庭

2

#### 1. 埼玉県吉川市 吉川市立美南小学校

複合化

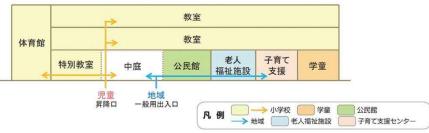
多機能

#### 管理・運営の体制

施設	利用時間(平日) 8 12 17 22	所 管	管理・運営	
小学校	$\longleftrightarrow$	教育委員会	教育委員会	
公民館	$\longleftrightarrow$	教育委員会	教育委員会	
老人福祉施設	$\longleftrightarrow$	市長部局	社会福祉協議会	
子育て支援センター	$\leftrightarrow$	市長部局	NPO 法人	
学童保育	<b>←→</b>	市長部局	市長部局	

#### 施設の配置・動線

#### <立面図>

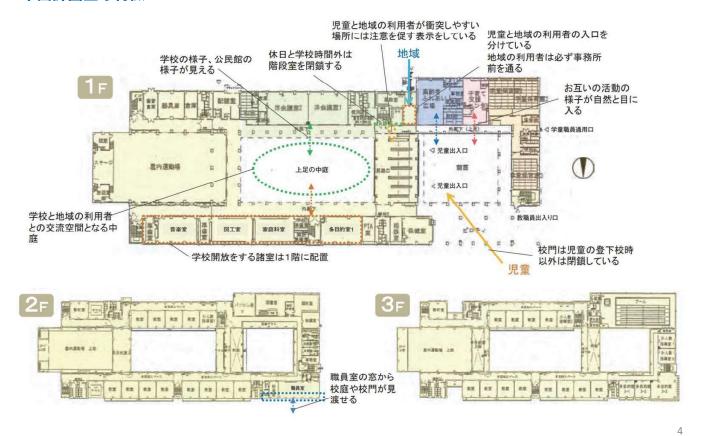


- ・地域の利用者が利用する各施設や学校開放にも使用する特別教室は 1 階に配置し、普通教室や職員室などの諸室は2 階以上に配置する ことで管理をしやすくしている。
- ・1階の中庭は学校と地域の利用者が自然に交流できるスペースとして設置している。

#### <配置図>



#### 平面計画上の特徴



#### 1. 埼玉県吉川市 吉川市立美南小学校

複合化

多機能

#### 公共施設の整備

- ・新興住宅地における学校施設の整備を、その他の公共施設の整備と併せて実施
- ・地域の二一ズを踏まえ、小学校を中心に、乳幼児から高齢者まで、様々な年代が利用する施設を複合化
- ・小学校の特別教室や体育館を地域開放することを前提として整備



子育て支援センター



学童保育室



デイサービスでは小学校の 給食を提供



学校教育の活動時間外に 体育館を地域に開放

子育て世代・共働き世代が増加する 地域の実情に応じた施設を整備

#### 地域と子どもが育ち合う共育の場

#### ・作手地区4校の統合小学校と地域の交流施設からなる複合文化施設 ・全学年が一緒に給食をとり、交流の場にもなるランチルーム

- ■学校規模 /生徒数 68名 (2022年5月1日現在)
- ■複合施設(床面積) 小学校(3,257㎡) 地域連携室 ランチルーム
  - 図書館 学童保育室
- ■開校年 /2021 年
- ■構造 /木造、RC造、S造、地上1階建

#### 施設整備の背景 ------

新城市作手地区4校の統合小学校の「作手小学校」と地域の活動拠点の「つくで交流館」からなる複合施設。

設計段階から、地域と教職員、児童、行政職員、利用者みんなと一緒に考え、つくり、活動や想いを育み、地域と子どもが育ち合う共育の場を目指した。



<中庭>中にはを囲むように配置された小学校と交流館

#### [#L#L]

- 〇新城市 https://www.city.shinshiro.lg.jp/index.html
- ○東畑建築事務所 https://www.tohata.co.jp/works/?mode=show&seq=2983
- ○東愛知新聞 http://www.higashiaichi.co.jp/news/detail/754
- ○こどもが変わる 学校が変わる 図書館づくり https://www.hirayumodel.com/topics/entry 247.html

#### 2. 愛知県新城市立 作手小学校

複合化

多機能



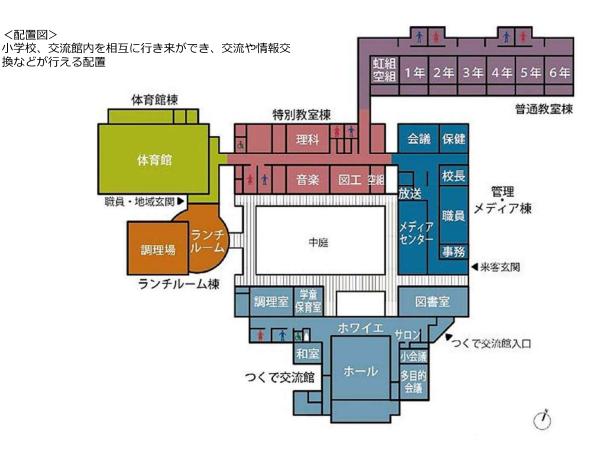
<ランチルーム> 地域の調理部会が、子どもたちを対象にした料理教室な ども定期的に開催している。



<交流館(ホール)> 住民有志が寄付金を集めて寄贈したグランドピアノが設 置されている。



<交流館の「図書室」> 廊下を挟んで隣接しており、相互に行き来ができ、交流 や情報交換などが行える配置



#### 3. 磐田市立 ながふじ学府小中一体校

複合化

多機能

環境

8

#### 人と人、学校と地域がつながる学び舎

#### 『日本一やさしさが育つ学校』を目指すためのつながりを育む多機能型施設

- ■学校規模 / 31学級 (特別支援学級/6学級)
- ■複合施設(床面積) 小学校、中学校(17,372㎡) 地域連携室 ランチルーム 屋内運動場 図書館
- ■整備時期 / R 4 年開校
- ■構造 / RC 造 地上4階建て

#### 施設整備の背景 ------

学童保育室

磐田市では、人と人とのつながりを大切に した学府一体校をはじめとする 「新時代の 新たな学校づくり」を進めており、ながふじ 学府小中一体校は、その第一弾として整備。



- ・地域の方との多様な体験活動を創出する「家庭科調理室併設ランチ ルーム」
- ・地域の方との連携を促進する「地域連携室」
- ・福祉施設との交流を支援する「福祉交流支援室」
- ・災害時の炊き出しにも対応できる「共同調理場」を計画

〇磐田市HP https://www.city.iwata.shizuoka.jp/kyoiku/kyouikushisaku/1008588/1008589.html ○広報いわた 2021年(令和3年)3月号



<地域連携室 ホール側> 地域住民が自由に利用できる 地域に開かれた地域連携室。



〈ランチルーム〉 給食だけでなく、豊田東小児童との交流、集会、地域 住民の活用など多目的に活用できる。



<地域連携室 土間スペース>



<なかふじホール・広い階段> 「なかふじホール」で演奏準備をする生徒

10

#### 3. 磐田市立 ながふじ学府小中一対校

複合化

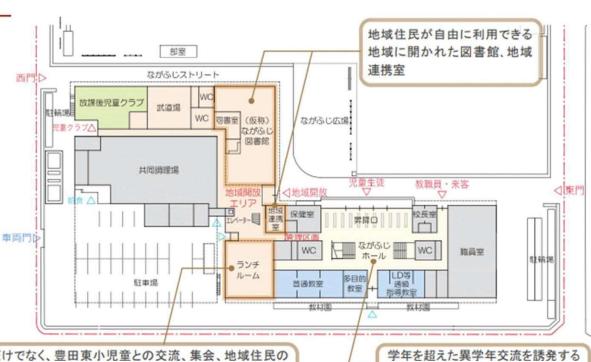
多機能

環境

#### <配置図>

・学校施設のほかに「ながふじ図書館」や「地域連携室」、「ランチルーム」 など地域の方も利用できる地域開放エリアを設けている。

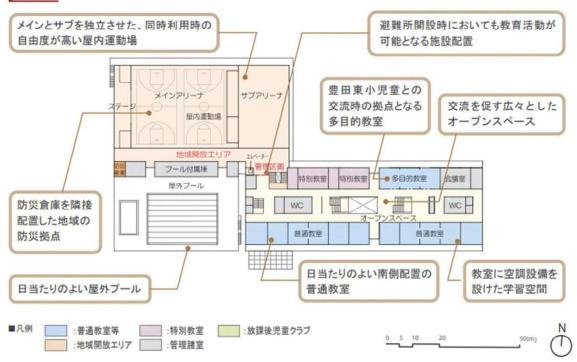
#### 1階



給食だけでなく、豊田東小児童との交流、集会、地域住民の 活用なども可能な多目的に活用できるランチルーム

広い昇降口と広い階段

#### 2階



12

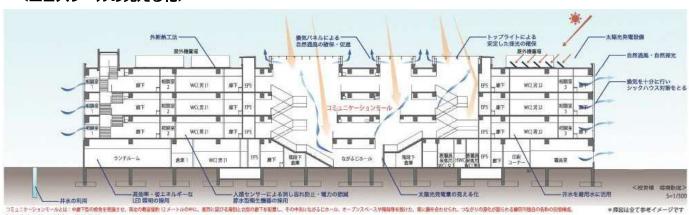
#### 3. 磐田市立 ながふじ学府小中一対校

複合化

多機能

環境

#### <エコスクールの見える化>



#### 1. 自然エネルギーの有効活用

- ・校舎全体で自然通風、自然採光を積極的に活用
- ・太陽光発電設備は環境教育の一環として10kw分を 設置
- ・井戸水をトイレ洗浄、プール用水、グラウンド散 水に有効活用

#### 2. 省エネルギー下の推進

- ・LED照明の採用
- ・風量調整機能をもった床吹き出し空調
- ・WCには人感センサーを採用

#### 3. 建物長寿命化

- ・耐久性が高い堅牢な構造体
- ・将来の変化に対応できるよう、スケルトン・イン フィル構造を導入

#### 4. 木材の活用

・内装材にできる限り木材を活用

#### 5. ライフサイクルコストの縮減

- ・高効率機器の積極的な採用
- ・汎用性のある材料や長寿命の機器を選定
- ・費用対効果の高い省エネルギー技術を積極的に採用

#### だれもが自分の居場所を見つけられる学校

学び・遊び・育む9年間を1つの旅と捉え、 教育の内容や身体寸法の変化に応じ、だれもが自分の居場所を見つけられる学校づくり

- ■学校規模 小学校 / 538 名 中学校 / 274 名 (2022.5.1現在)
- ■複合施設 小学校、中学校 運動施設 (アリーナ・プールなど) 学童保育
- ■延べ床面積 /14,537㎡
- ■開校年 /2008年
- ■構造 / RC 造 地上 3 階建て

#### 施設整備の背景

府中市では、平成15年度に市内全域で小中 一貫教育を導入することを決定。試行的な期間を経て、全国に先駆けて平成20年度から市 内全小・中学校において小中一貫教育を本格 実施した。府中小学校・府中中学校(府中学 園)は、市内初の施設一体型校舎として、市 街地中心部にあった中学校敷地とそれに隣接 した工場跡地に新設され、平成20年度に開校 した。



校舎外観

#### [典出]

- ○報告書「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について~子供たちの9年間の学びを支える 施設環境の充実に向けて~」(文部科学省)
- 〇広島県府中市 https://www.city.fuchu.hiroshima.jp/

14

#### 4. 府中市立府中学園

複合化 多機能





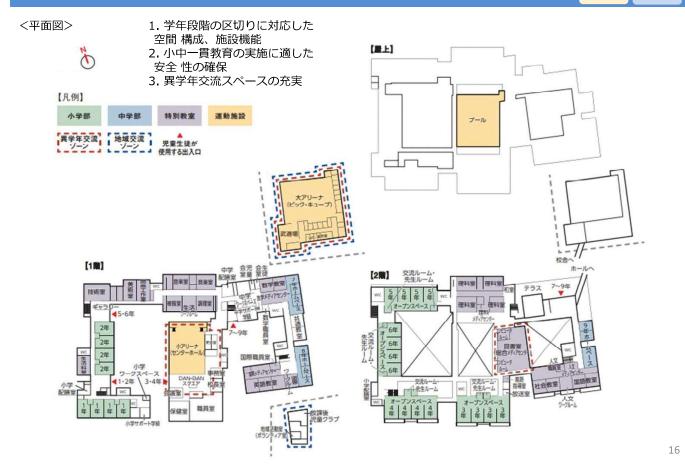
<図書室(総合メディアセンター)> 図書室は総合メディアセンターとしてコンピュータルームと一体化し、校舎の中心に配置されている。





1・2階の吹き抜け に設置されている 「DAN・DANスク エア」は、階段状の 空間とフロアがあり、 多目的に活用してい る。

4. 府中市立府中学園 複合化 多機能



#### 5. 守口市立さくら小学校

多機能

環境

#### 学校全体を"木に包まれた"学びの場に」

建物の内外を問わず、様々な場所に児童の居場所や活動が展開していく仕掛けや場づくり 地域の方にも親しまれる「みんなの学校」

- ■学校規模 小学校 /19学級 457 名 (2021年度)
- ■延べ床面積 /10251.88㎡
- ■開校年 /2021年3月竣工
- ■構造 / RC 造 木造、一部s造・地上 3 階建て

#### 施設整備の背景

まちのシンボルとして愛されている3本の既存のクスノキを保存し、旧建物配置と同様の配置とすることで周辺環境の影響を最小限に抑える。密集する戸建住宅と同程度のボリュームに分節し、2階建てとすることで街に溶け込むようにした。既存の小学校時代からつながりが深い近隣住民の方との協働の花壇や田畑をつくることで児童の教材を用いた学習だけでなく、地域の人との交流を通した学びのきっかけづくりを図り、地域の方にも親しまれる「みんなの学校」となることも目指した。



クスノキを保存した校舎

[出典]

○「おおさか環境にやさしい建築賞

https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/2428/00421745/p27-28.pdf  $\bigcirc$ 大阪府

https://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi\_shinsa/casbee\_index\_html/xyasashii\_r03\_hyosyo.html 〇昭和設計 https://www.showa-sekkei.co.jp/jp/project/?id=457



晋通教至



ふれあい広場



内外一体で利用できる多目的室(ランチルーム)



メディアホール

#### 18

#### 5. 守口市立さくら小学校

多機能

環境

環境配慮の見える化

木質内装材によるCO2固定量の表示、屋根を支えるトラス材の廃材を利用したサイン、太陽光発電による発電電力の見える化など各所で児童が環境やリサイクルに興味を持つきっかけを作ることで児童の学びの循環に繋ぐ。



■ 南水貯管槽、南水調整槽



廃材を利用したサイン



建物の各所で自然採光を最大限取り入れた省エネルギー対策

6. にじの丘学園 多機能 環境

#### 瀬戸の文化を継承し、出会いと協働で地域愛を育む小中一貫校

歴史や伝統を受け継ぐ場所をつくり、 9年間の学校生活の中で、自ずと郷土を学び、次世代へ掲揚される学び舎をつくること

■学校規模 小学校 / 28学級 708 名 中学校 / 12学級 306名 (2022年5

#### 月1日現在)

- ■延べ床面積 /12,134㎡
- ■開校年 /2020年4月竣工
- ■構造 / RC 造 地上 2 階、地下1階建て

#### 施設整備の背景 ------

本施設は、緑地公園の一角に5小学校と2中学校の7校統合による小中一貫校として計画された。山林や多くの自然環境が残る高低差約15mの特徴ある敷地を最大限活用し、太陽光、自然採光、通風等の自然エネルギーを積極的に活用することで、省エネルギー性能を高めた。またBEMSにより各データを見える化することで、生徒に対し環境意識の啓蒙を図っている。



登り窯のシステムを模した校舎は環境装置としても機能し、 小中一貫校としては初のZEB Readyを取得

[出典] ○ZEB事例集(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a\_menu/shisetu/shuppan/mext\_00003.html  $\bigcirc$ 瀬戸市 http://www.city.seto.aichi.jp/

○いいもん せともん https://iimonsetomon.jp/kurasu/

20

#### 6. にじの丘学園

多機能

環境



間仕切りを開放すれば、ワークスペースとつながり様々な学習形態に利用



学校の中心にライブラリー・多目的スペースを配置



図書スペース横に併設されている大階段

6. にじの丘学園 多機能 3機能 環境

ZEB化のポイント

【ZEB評価】 ランク: ZEB Ready、省エネルギー率: 56% 創エネルギー率: 1% 【ZEB導入設備】 Low-E複層ガラス、高効率空調、換気設備、LED照明、給湯設備(コージェネ)、 太陽光発電設備、蓄電池、コージェネ発電、補助熱源利用システム、BEMS

#### 【真空管太陽熱集熱器】



真空管太陽熱集熱は、真空ガラス管によるヒートパイプユニットによって、厨房給湯や中央空調熱源補助として利用される。給湯エネルギーは、環境配慮の観点から、利用順位を定め、(1)太陽集熱、

- (2) コージェネ廃熱、
- (3) ヒートポンプ給湯器となるように設定。

#### 【換気設備】



教室群は、全室CO2、センサー付全熱交換器による第一種換気とし、快適な室内環境を確保しつつ外気負荷の低減

#### 【LED照明及び自然採光】



全館に高効率仕様のLED器具を積極的に 導入。教室など多くの部屋は自然光を積 極的に取り入れた計画



22

#### 7. 大豊町立大豊学園

複合化

多機能

環境

木浩

#### 日本一の大杉を望む木造校舎

#### 小中一貫校の「5・4制」の9年生の義務教育学校 一人一人の可能性を伸ばし自己と未来を創造する力を育む

■学校規模 前期 7学級:69名

後期 12学級:111名

(2022年現在)

■複合施設 義務教育学校、

給食センター

保育所

- ■延べ床面積 /3,251㎡
- ■開校年 /2021年8月竣工
- ■構造 / 木造 地上2階建て

#### 施設整備の背景

本施設は、既存中学校校舎の隣地に新たに整備された、小学校(給食センター含)と保育所を統合した新築施設である。すべて木造(一部の棟にCLT使用)で、採光と風通し等の工夫で省エネルギー化を図り、外皮にLow-E複層ガラスと高性能断熱材、主な空調には床輻射式冷暖房を導入した。



自然通風に配慮に配慮に配慮に配慮にできませるともなどでなりない。 や屋根などでがないないですがない。 ター及びを対対をできますが、公子のでは、 ターのでは、 がせいる。 では、 では、 のでは、 ので



建物は全て大豊町産の木材を使用しており、構造躯体には CLTを使用している。



#### 7. 大豊町立大豊学園

複合化

多機能

環境

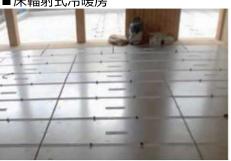
【ZEB評価】 ランク: ZEB Ready省エネルギー率:54% 創エネルギー率:1% 【ZEB導入設備】Low-E複層ガラス、高効率空調(床輻射式)、全熱交換器、LED照明、ヒートポ ZEB化のポイント 【ZEB評価】 ンプ給湯器、太陽光発電設備、蓄電池

#### ■庇による日射遮蔽



庇により夏季は日 射遮蔽による熱負荷 の低減、冬季は日射 取得することで空調 負荷の低減を図ると ともに、建物開口部 からの自然採光と風 通し等を確保し省工 ネルギー化を図った。

#### ■床輻射式冷暖房



エアコンの空気を用 い、床面の冷却・加熱 による放射とペリメー ター付近からの床吹出 しを組合せた、ハイブ リッド空調システムで ある床輻射式冷暖房を 採用した。

#### ■太陽光発電設備・蓄電池





太陽光発電により得られた電力をリチウムイオン蓄電池 (5.6kWh) に蓄電することにより、省エネルギー化ととも に、災害時のレジリエンス強化を図った。また、エネル ギー使用量を見える化し、消費エネルギーを意識させるこ とで、省エネルギー推進を図った。

[出典] ○ZEB事例集(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a\_menu/shisetu/shuppan/mext\_00003.html ○大豊町立大豊学園 https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/otoyogakuen/ ○大豊町広報「ゆとりすと」(10月号)

#### 木のぬくもりに包まれた学び舎

#### 全国初の木造3階建て小学校 まちのシンボルとして地域になじむ配置計画と外観デザイン

- ■学校規模 /小学生 15学級:290名 (2021年度)
- ■複合施設 小学校 学童保育
- ■延べ床面積 /4,950㎡
- ■開校年 /2020年1月竣工
- ■構造 / 木造 地上3階建て

#### 施設整備の背景

本施設は、文部科学省「木の学校づくり先進 事業」による支援を受けた国内初の木造3階建て 小学校。市内の3小学校の統合校のため、地域・ 教職員・児童・大学研究者とワークショップを 行いながら、多くの利用者と協働しながら設計 を進めた。



- 〇東畑建築事務所<br/>
  <a href="https://www.tohata.co.jp/works/?mode=show&seq=2992">https://www.tohata.co.jp/works/?mode=show&seq=2992</a>
- ○新建築データhttps://data.shinkenchiku.online/articles/SK\_2021\_11\_152-0

26

#### 8. 魚津市立星の杜小学校

複合化

多機能



漁師町魚津の街並みの色彩をモチーフにした落ち着いた色味の外壁



木製の引き戸を開閉し多彩な学習・生活の場をつくりだせる普通教室





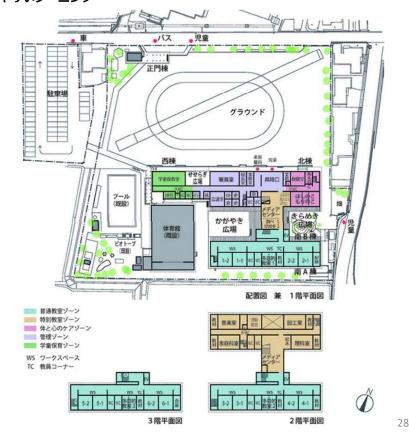
立体的な繋がりを生み出す段状のオープンスパース



ふらっと立ち寄りやすいメディアセンター <sub>27</sub>

#### ■ゾーニング計画 **落ち着いた教室環境と展開しやすいゾーニング**

- ・日照・採光・通風などの良好な環境を確保し やすい、南向きのH型プラン
- ・普通教室ゾーンは南A棟に全室を南向き 配置
- ・1学年2クラスのまとまりを大切にした クラスター形式とすることで、通過動線 をなくし、落ち着きのある学習/生活環 境を形成
- ・特別教室ゾーンは各フロアの普通教室からアプローチしやすい、北棟2階に配置
- ・動線の要となる校舎中央にはメディアセンターを配置。休み時間にもふらっと立ち寄れるなど、普段から本に親しみやすい環境を創出した



#### 8. 魚津市立星の杜小学校

複合化

多機能

木造

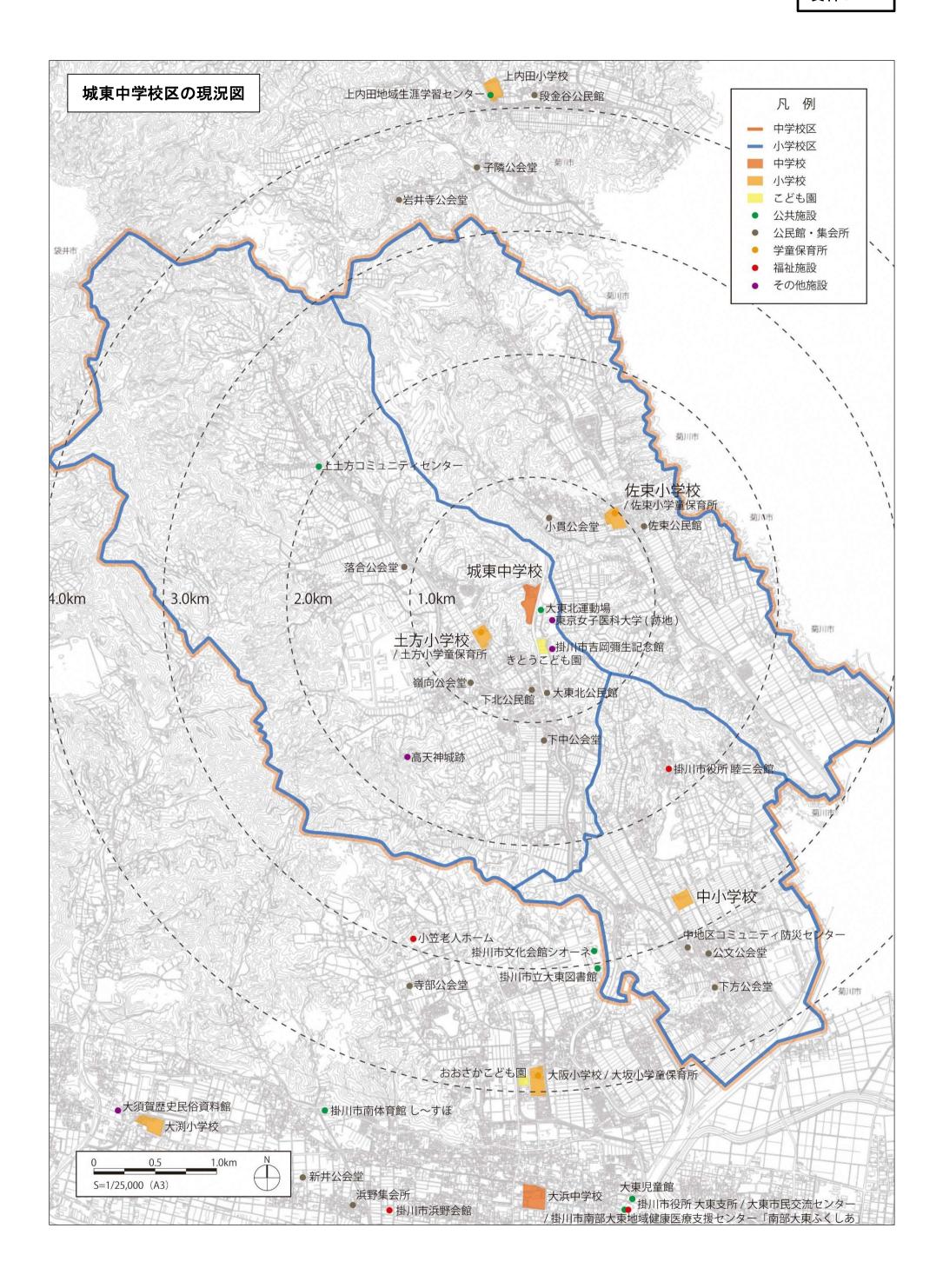
#### ■木の取り入れ方

【木のぬくもりを残した防耐火建築】

特別教室及び管理棟と普通教室棟とを、延焼を防止する壁等(90分耐火構造)で床面積3,000㎡ごとに区画することで、それぞれ準耐火建築物としている。また、天井の不燃化や雁木・小庇(防火上有効に設けられたひさし等)により一定の上階延焼防止措置を講じることで、木造3階建て校舎を1時間準耐火建築物とした。

#### ■木材調達と構造計画との連携





#### 建設候補地検討資料 城東中学校・東京女子医科大学跡地

	城東中学校	東京女子医科大学跡地
現況図(同縮尺)	城東中学校 東京女子	城東中学校  「東京」  「東京  「東京
	35,045 ㎡(学校施設台帳面積)	34,120 m (登記簿面積)
敷地面積	・建物敷地:23,367 ㎡	
	・運動場:11,334 ㎡ その他:344 ㎡	
児童生徒1人当	79.1 ㎡/人 (※)	77.0 ㎡/人 (※)
たりの面積		
	・面積上は、小中一貫校整備は可能と考えられる。	・面積上は、小中一貫校整備は可能と考えられる。
敷地規模・形状	・不整形な形状である。	・地形に高低差があり、東側には茶畑が広がっている。
周辺環境 等	・丘陵地にあり、周辺環境は農地や雑木林である。	・西側には大東北運動場が隣接している。
		・南側には、きとうこども園が立地している。
ハザード	・土砂災害:警戒区域 急傾斜地の崩壊	・土砂災害:警戒区域 急傾斜地の崩壊
中学校区内の位置	・中学校区の中央部に位置する。	・中学校区の中央部に位置する。

<sup>※</sup> R 12 年度児童生徒見込み数 土方小 107 人、佐東小 95 人、中小 65 人、城東中 176 人 合計: 443 名